



いつもほほ笑みを

さつき荘副施設長 江澤尚通

常日頃、どなたに接しますにも、「ほほ笑いだけは忘れたくないな」と思っています。仏教では「無財七施（むざいしちせ）」という教えがありますが、財がなくとも私たちにできることが七つあり、その一つが「和顔施（わけんせ）」、つまりほほ笑むことなのです。

多様化した日常生活の中で、私どもはややもすると、苛立ちを覚え、心のゆとりをなくし、ほほ笑みを忘れがちです。ほほ笑みを投げかけることによって、人は安心感や満足感にひたり、あたたかいふれあいを感じるものです。心情の豊かさ、素直さ、明るさ、温順さ、信頼感などは、みんなこのほほ笑いの中で育まれていくものと思っています。

さつき荘を利用される方々を取り巻く私どもが、ほほ笑みを持って迎え入れ、接していこうとする心配りが大切です。いつもほほ笑みを持つだけのゆとりを身に着け、心を豊かにしていくよう努めていきたいものです。

時代の変遷とともに救護施設を取り巻く環境も変容し、取り組むべき課題は山積していますが、ひきつった、こわばりそうな表情を和らげ、少しでも明るいほほ笑みを持ち続けていきたいものです。

さつき荘が、やすらぎと笑顔のある施設でありますように。

新型コロナワクチン接種を行いました

65歳以上の利用者と高齢者施設等従事者の職員の接種から始まり、65歳以下の利用者の接種も順調に進んでいます。人それぞれ副反応は違いますが、大きく体調を崩すことなく経過しており、8月中に利用者、職員全員のワクチン接種が終わる予定です。

ワクチン接種が済んだから、新型コロナウイルスに感染しないという事ではありません。今後も感染症対策を継続し、マスク・手洗い・消毒と気を抜かずに生活していきます。



さつき荘での利用者接種



村山荘訓練棟にて職員接種

救護施設交流会俳句短歌の会（オンライン）に参加しました。



ZOOMを使ったオンライン俳句短歌の会の様子です。



中沢先生選句で、武居弘訓さんが特選をいただきました。



河村広さんが、2人の先生から佳作をいただきました。

コロナ過の中、救護施設 10 施設によるオンライン俳句短歌の会が令和3年6月17日に行われました。さつき荘から2名の利用者さんが参加しました。2部ではビンゴ大会があり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後も参加していい句ができるよう頑張ります。

都立東村山西高校1年生のみなさんがボランティアに見えました



↑坊主めぐり
高校生は坊主を引くことが多かった！！

神経衰弱→
この他に七並べ、ババ抜きもやりました

令和3年6月30日（水）7月7日（水）
さつき荘で短時間の活動に来てくれました。
昨年から行事が軒並み中止になる中、特別な時間を過ごすことが出来ました。

